

IBM InfoSphere Information Server
バージョン 11 リリース 3

**IBM InfoSphere Information
Server Oracle Connector
メッセージ・リファレンス**



IBM InfoSphere Information Server
バージョン 11 リリース 3

**IBM InfoSphere Information
Server Oracle Connector
メッセージ・リファレンス**



お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、29 ページの『特記事項および商標』に記載されている情報をお読みください。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SC19-4343-00
IBM InfoSphere Information Server
Version 11 Release 3
IBM InfoSphere Information Server
Oracle Connector Message Reference

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2013, 2014.

目次

| | | | |
|----------------------------------|----|--|----|
| Oracle Connector メッセージ | 1 | 付録 D. 製品資料に関するフィードバック の提供 | 27 |
| 付録 A. 製品のアクセシビリティ | 21 | 特記事項および商標 | 29 |
| 付録 B. IBM の窓口 | 23 | 索引 | 35 |
| 付録 C. 製品資料へのアクセス | 25 | | |

Oracle Connector メッセージ

このメッセージ・リファレンスには、Oracle Connector のさまざまなコンポーネントから返されるメッセージが含まれています。

Oracle Connector がインストールされているオペレーティング・システムの機能をよく理解している必要があります。このメッセージ・リファレンスの情報を使用して、エラーや警告を識別し、適切なリカバリー・アクションによって問題を解決することができます。また、この情報により、メッセージが生成され記録される場所を確認できます。

パラレル・エンジンは、インストール、ファイルの書き込みおよび読み取り、および製品の一般的な使用において発生するエラーに関するメッセージを生成します。メッセージ情報は、エラーのタイプを記述し、そのエラーの発生理由を説明し、それらに対処する解決策を提示します。

各メッセージには、接頭部 (HS) とメッセージ番号から構成されるメッセージ ID があります。メッセージは、メッセージ番号に基づいて番号順にリストされています。メッセージ・タイプには、エラー、警告、および通知の 3 種類があります。E で終わるメッセージ ID は、エラー・メッセージです。W で終わるメッセージ ID は、警告を示しています。I で終わるメッセージ ID は通知メッセージを示しています。

メッセージ中にある {0} 記号は、コードによって戻される変数を示しています。この変数は、生成されたメッセージに固有の値またはプロパティを示しています。

エラーの詳細は、InfoSphere® DataStage® and QualityStage® ディレクター・クライアントのログ・ファイルで確認できます。

IIS-CONN-ORA-001001E 変数 {変数} の値は {値} で、これは、現行コンテキストでは無効です。

説明: コネクターはこれ以上具体的なメッセージを識別して提供することができません。

ユーザーの処置: 示された変数および値を使用して、問題の原因を判別してください。例えば、値は、コネクターに対して構成されたプロパティ名および値に関連している場合があります。

IIS-CONN-ORA-001002E OCI 関数 {OCI 関数} は状況 {状況} を返しました。
OCI_INVALID_HANDLE.

説明: コネクターは Oracle クライアントと正常に通信できませんでした。問題は、外部問題に関連している可能性があります。

ユーザーの処置: このエラーの原因となった状況を説明

している可能性がある追加の情報、警告、およびエラーのメッセージがないかログを調べてください。

IIS-CONN-ORA-001003E OCI 関数 {OCI 関数} は状況 {状況} を返しました。エラー・コード: {コード}、エラー・メッセージ: {エラー・メッセージ}。

説明: 示された関数をコネクターが呼び出した後、Oracle クライアントはエラーを返しました。

ユーザーの処置: 報告されたエラー状況、エラー・コード、およびエラー・メッセージを調べてください。エラーの原因を判別するときに、その情報を使用できます。

IIS-CONN-ORA-001004E コネクターは、Oracle サーバー {サーバー} への接続を確立できませんでした。方式: {OCI 関数}、エラー・コード: {コード}、エラー・メッセージ {エラー・メッセージ}。

説明: コネクターは Oracle サーバー {サーバー} に接続できませんでした。

ユーザーの処置: 「サーバー」、「ユーザー名」、および「パスワード」の各プロパティが正しく指定されていることを確認してください。Oracle サービスとリスナーが実行中であることを確認してください。オペレーティング・システム認証を使用する場合は、オペレーティング・システム認証が Oracle データベースで正確に構成されていることを確認してください。

詳細は、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターで、Oracle データベースへの接続の定義についてのトピックを参照してください。

IIS-CONN-ORA-001010E サポートされないデータ・タイプ: {OCI データ・タイプ}。

説明: コネクターは {OCI データ・タイプ} Oracle データ・タイプを検出しましたが、それは現行コンテキストではサポートされていません。エラーは、外部問題に関連している可能性があります。通常、このエラーは、ご使用のコネクターのバージョンではサポートされていない Oracle サーバーのバージョンを使用している場合に発生します。

ユーザーの処置: Oracle Connector をアップグレードしてください。

IIS-CONN-ORA-001011E サポートされないタイプ・コード: {タイプ・コード}。

説明: コネクターは、コネクターの入力スキーマで、現行コンテキストでサポートされないデータ・タイプを検出しました。

ユーザーの処置: Oracle Connector ステージの入力スキーマに、サポートされているデータ・タイプを指定してください。Oracle Connector のデータ・タイプに関する情報は、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターを参照してください。

IIS-CONN-ORA-001012E {合計バイト数} バイトのメモリーの割り振りに失敗しました。

説明: システムの使用可能メモリーが不足していたため、コネクターは、実行していたオペレーションに空きメモリーを割り振ることができませんでした。

ユーザーの処置: メモリーを解放するには、アプリケーションをいくつか閉じてください。その後、操作を再試行してください。

IIS-CONN-ORA-001013E コネクターは、Oracle 関数 {OCI 関数} の呼び出しによって XA 環境を初期化できませんでした。

説明: 実行時に、分散トランザクション環境は初期化されませんでした。

ユーザーの処置: システムが Distributed Transaction ステージ (DTS) およびトランザクション・マネージャーで使用できるように正しく構成されていることを確認してください。詳細は、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターで、Distributed Transaction ステージ・ジョブでの Oracle Connector の使用についてのトピックを参照してください。

IIS-CONN-ORA-001014E ステートメントは、入力行 {入力行オフセット} で、状況 {OCI エラー・コード}: {OCI エラー・メッセージ} で失敗しました。

説明: ステートメントの実行は、入力データのオフセット {入力行オフセット} で、エラー・コード {OCI エラー・コード} およびメッセージ {OCI エラー・メッセージ} で失敗しました。

ユーザーの処置: 入力データに関するエラー・コード、エラー・メッセージ、および情報を使用して、エラーの原因を特定してください。

IIS-CONN-ORA-001015E 列 {列名} のデータ・タイプ情報を取得できないため、コネクターは表 {表名} を作成できませんでした。

説明: コネクターは、列 {列名} のデータ・タイプを検出できなかったため、表 {表名} の CREATE TABLE ステートメントを生成しませんでした。

ユーザーの処置: Oracle Connector ステージの入力スキーマに、サポートされているデータ・タイプを指定してください。詳細は、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターで、表作成のためのデータ・タイプ・マッピングについてのトピックを参照してください。

IIS-CONN-ORA-001016E コネクターが LOB 値を処理することができるように、配列サイズを 1 に設定する必要があります。

説明: 「配列サイズ」プロパティが 1 より大きい値に設定されています。Oracle Connector が LOB 列を読み取るときは、配列サイズは 1 でなければなりません。

ユーザーの処置: 「配列サイズ」プロパティを 1 に設定してください。

IIS-CONN-ORA-001017E コネクタは、表 {表名} の LOB 列 {列名} の ROWID 値を判別できませんでした。

説明: コネクタは、参照によって渡される LOB 値を含む行の行 ID を取得できませんでした。

ユーザーの処置: {列名} 列と {表名} 表が使用可能であることを確認し、それらに現行ユーザーがアクセスできるようにしてください。

IIS-CONN-ORA-001018E コネクタは LOB 列 {列名} の表名を取得できませんでした。 LOB 参照は、作成されませんでした。

説明: コネクタは、参照による受け渡しを行う LOB 値のロケータを生成する際に、表名を判別できませんでした。

ユーザーの処置: 「表名」プロパティまたは「SELECT ステートメント」プロパティで表名が正しく指定されており、ユーザーが表に対するアクセス権限を持っていることを確認してください。

それでもエラーが解決しない場合は、ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルまたは .isx ファイルとしてエクスポートできます。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターで、トラブルシューティングのトピックを参照してください。

他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターの InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

IIS-CONN-ORA-001019E コネクタは tnsnames.ora ファイルを見つけることができませんでした。 ORACLE_HOME または TNS_ADMIN 環境変数が設定されていることを確認してください。あるいは Oracle 簡易接続ネーミング・メソッドを使用するか、完全な接続記述子を指定してください。

説明: コネクタは tnsnames.ora Oracle ネットワーク構成ファイルを見つけることができませんでした。

ユーザーの処置: ORACLE_HOME 環境変数または TNS_ADMIN 環境変数を正しく設定し、現行ユーザーがそれらのパスにアクセスできるようにしてください。

Oracle Connector が確実に tnsnames.ora ファイルにアクセスできるようにするために、Oracle 簡易接続ストリングを使用したり、完全な接続記述子を使用したりすることもできます。Oracle 簡易接続ストリングを指定する場合は、次の構文を使用します。 `host[:port]/[service_name]`

IIS-CONN-ORA-001020E コネクタは Oracle ネットワーク構成ファイル {ファイル名} を開くことができませんでした。

説明: コネクタは、tnsnames.ora 構成ファイルを開くことができませんでした。ファイルは正しい場所にある可能性があります。しかし、以下の問題によってこのエラーが発生する場合があります。

- 現行ユーザーがファイルに対する読み取りアクセス権限を持っていない可能性がある。
- システム・レベルのエラーが発生した。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのタスクを実行してください。

- ファイルが存在し、その内容が表示可能であることを確認します。
- tnsnames.ora 構成ファイルを使用しない場合は、「サーバー」プロパティに完全な接続記述子または Oracle 簡易接続ストリングを指定します。Oracle 簡易接続ストリングを指定する場合は、次の構文を使用します。 `host[:port]/[service_name]`

IIS-CONN-ORA-001021E コネクタは Oracle ネットワーク構成ファイル {ファイル名} を読み取ることができませんでした。

説明: コネクタは、tnsnames.ora 構成ファイルの内容を読み取ることができませんでした。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのタスクを実行してください。

- ファイルが存在し、空でないことを確認します。
- tnsnames.ora 構成ファイルを使用しない場合は、「サーバー」プロパティに完全な接続記述子または簡易接続ストリングを指定します。Oracle 簡易接続ストリングを指定する場合は、次の構文を使用します。 `host[:port]/[service_name]`

IIS-CONN-ORA-001022E 次の SQL ステートメントが失敗しました。{SQL ステートメント}。

説明: コネクタは SQL ステートメント {SQL ステートメント} を実行できませんでした。

ユーザーの処置: ステートメントの構文が正しいことを確認してください。ステートメントが失敗した理由を特定する情報が含まれている可能性のある追加の警告またはエラー・メッセージがないか、ログ・ファイルを調べてください。

IIS-CONN-ORA-001023E コネクタは、入力スキーマ内に、パラメーター {パラメーター名} と一致する列を見つけることができませんでした。

説明: SQL ステートメントで使用された {パラメーター名} パラメーターは、入力スキーマのフィールドと一致しませんでした。

ユーザーの処置: ステートメント・パラメーターが入力リンクの列名に一致するようにしてください。パラメーターと列についてそれぞれ数と名前を調べ、各ペアの間に不明確なマッピングが存在しないかどうか確認してください。

IIS-CONN-ORA-001024E 列 {列名} のデータの読み取り中に、コネクタは Oracle エラー・コード ORA-{エラー} を受け取りました。

説明: コネクタが {列名} 列のデータを読み取ったときに、Oracle データベースからエラーが返されました。

ユーザーの処置: Oracle エラー {エラー} の詳細は、Oracle の資料を参照してください。入力列定義をデータベース列定義と比較してください。この Oracle エラーが、2 つの列定義間の不一致により発生したものであるかどうかを判別してください。

IIS-CONN-ORA-001025E コネクタは、UPDATE ステートメントを自動生成できませんでした。入力スキーマに非キー列を少なくとも 1 つ指定してください。

説明: コネクタは、UPDATE ステートメントを生成しようとしたのですが、SET 節に追加する非キー列が見つかりませんでした。

ユーザーの処置: Oracle Connector ステージの入力スキーマに、非キー列を指定してください。

IIS-CONN-ORA-001026E コネクタが {0} ステートメントの WHERE 節を自動生成できませんでした。入力スキーマにキー列を少なくとも 1 つ指定してください。

説明: コネクタが実行時に UPDATE または DELETE ステートメントを自動生成するためには、入力リンクにキー列が 1 つ以上必要です。

ユーザーの処置: Oracle Connector ステージの入力スキーマに、1 つ以上のキー列を指定してください。

IIS-CONN-ORA-001027E コネクタは、実行を {使用可能なノード数} 個の処理ノードに制約されていますが、表 {表名} に指定された Oracle パーティション・スキームは、処理ノードの総数が {必要なノード数} であることが必要です。

説明: 表 {表名} のパーティション・スキームは {必要なノード数} 個の処理ノードを必要とします。しかし、コネクタは {使用可能なノード数} 個のノードに制約されているため、必要な数の処理ノードを作成できませんでした。

ユーザーの処置: 制約ルールを変更してノードの合計数がコネクタに必要なノード数に一致するようにするか、制約を削除して、必要とするノードの数をコネクタが動的に指定できるようにしてください。

IIS-CONN-ORA-001028E コネクタは、表 {表名} で、指定された列 {列名} を見つけることができませんでした。

説明: コネクタは、{表名} 表から {列名} 列に関する情報を取得できませんでした。

ユーザーの処置: 列名および表名が正しく、列が表に存在していることを確認してください。また、現行ユーザーが表を所有しているか、表名に表の所有者が指定されるようにしてください。例えば、現行ユーザーではない ADMIN2 が表を所有している場合は、ADMIN2.table_name と指定します。

IIS-CONN-ORA-001029E 表 {表名} の列 {列名} のデータ・タイプは {データ・タイプ} で、スケールは {スケール} です。スケール 0 のデータ・タイプ NUMBER を指定してください。

説明: コネクタがモジュラスまたは最小範囲と最大範囲のパーティション読み取り方式を使用する場合、パーティション読み取りに使用される列は、NUMBER データ・タイプでなければなりません。また、列のスケール

は、0 に設定されているか、未指定でなければなりません。

ユーザーの処置: ソース表がアクセス可能であることを確認してください。また、「パーティション読み取りの列名」プロパティが、NUMBER データ・タイプを持ち、0 に設定されているか未指定のスケールを持つ列に設定されていることを確認してください。

IIS-CONN-ORA-001030E コネクターは、名前 {名前} を、表 {表名} 内のパーティションまたはサブパーティションのどの名前とも一致できませんでした。

説明: コネクターは、{表名} 表の中で、名前が {名前} であるパーティションもサブパーティションも検出しませんでした。

ユーザーの処置: 指定された値が正しく、「パーティション読み取りのパーティション名またはサブパーティション名」プロパティに指定された名前が、示された表内のパーティションまたはサブパーティションの名前と一致することを確認してください。

IIS-CONN-ORA-001031E コネクターは、指定された表またはビュー {表名} を見つけることができませんでした。

説明: コネクターは、{表名} 表についてメタデータに照会できませんでした。

ユーザーの処置: 指定された表名またはビュー名が既存の表名またはビュー名と一致することを確認してください。スキーマ名が表名またはビュー名とともに指定されていない場合、コネクターは、表またはビューが、現在接続されているユーザーによって所有されているとみなします。

IIS-CONN-ORA-001032E コネクターは、パーティション・キー列 {キー列} を、入力スキーマの中のどの列とも一致できませんでした。

説明: コネクターは、パーティション・キー境界値との値の比較に使用する入力リンク上の列を判別できませんでした。

ユーザーの処置: 入力リンクの列の数および名前を確認してください。列の 1 つが {キー列} パーティション・キー列と一致していることを確認してください。

IIS-CONN-ORA-001035E プロパティ {プロパティ名} には値が必要ですが、値が指定されませんでした。

説明: コネクターは、{プロパティ名} プロパティの値を必要とします。

ユーザーの処置: プロパティが Oracle Connector ステージの中で設定されていることを確認してください。プロパティに対してジョブ・パラメーターが使用される場合は、ジョブの実行時にジョブ・パラメーターが設定されることを確認してください。

IIS-CONN-ORA-001036E 索引 {索引} はプロパティ {プロパティ名} の境界の外です。

説明: これは、外部問題に関連している可能性がある内部エラーです。メッセージに示されているのは表索引ではなく、内部コネクター・プロパティ索引です。

ユーザーの処置: {プロパティ名} プロパティが Oracle Connector ステージの中で正しく設定されていることを確認してください。

それでもエラーが解決しない場合は、ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルまたは .isx ファイルとしてエクスポートできます。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターで、トラブルシューティングのトピックを参照してください。

他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターの InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

IIS-CONN-ORA-001037E コネクターは、データ参照オペレーションをサポートしないコンテキストにあります。

説明: データ参照オペレーションは、コネクターの現行コンテキストではサポートされません。データ参照オペレーションは、標準 SQL を使用する読み取りモードまたは書き込みモードに対してのみサポートされます。このエラーは、コネクターがデータ参照用に構成されているながら、「読み取りモード」プロパティまたは「書き込みモード」プロパティが「PL/SQL」に設定されている場合に発生することがあります。

ユーザーの処置: データ参照オペレーションを完了するには、「読み取りモード」プロパティまたは「書き込みモード」プロパティを、「PL/SQL」以外の値に設定してください。

IIS-CONN-ORA-001038E コネクタは、データ参照オペレーションのために、SELECT ステートメントに含める表を見つけることができませんでした。

説明: コネクタはデータ参照オペレーションの SELECT ステートメントを生成しようとしたのですが、ユーザー定義 SQL ステートメントにも「表名」プロパティにも表名がありませんでした。

ユーザーの処置: コネクタ・プロパティ内の SQL ステートメントで、表名を正しく指定してください。「実行時に SQL を生成」プロパティが「はい」に設定されている場合は、「表名」プロパティに表名を指定してください。

IIS-CONN-ORA-001054E システム呼び出し {システム呼び出し} が OS エラー {エラー・コード} ({エラー・メッセージ}) で失敗しました。

説明: オペレーティング・システム機能が失敗しました。

ユーザーの処置: システム呼び出し {システム呼び出し} についてオペレーティング・システムの資料を参照し、システム・エラー・コード {エラー・コード} およびメッセージ {エラー・メッセージ} を使用して、問題を解決してください。

IIS-CONN-ORA-001055E 指定されたステートメント: {ステートメント} は無効なタイプです。
必要なステートメント・タイプ: {ステートメント・タイプ}。

説明: {ステートメント・タイプ} タイプのステートメントが期待されるプロパティ内で、{ステートメント} ステートメントが使用されました。

ユーザーの処置: ステートメント・タイプがその指定されたプロパティに適切であることを確認してください。

IIS-CONN-ORA-001056E スキーマ列 {スキーマ列名} は、データ・タイプ {データ・タイプ} のデータベース列 {データベース列名} のアクセスに使用されるため、長さが指定されていなければなりません。

説明: {データ・タイプ} Oracle データ・タイプの列

にコネクタがアクセスするには、列のサイズが指定されていなければなりません。

ユーザーの処置: 指定された列に長さの値を入力してください。列に転送されるデータの適切な長さを選択してください。

IIS-CONN-ORA-001057E コネクタは、DataStage 構文 (ORCHESTRATE.parameter_name) を使用するパラメータを検出しました。これは、PL/SQL ブロックでは許可されません。Oracle 構文 (:name ここで name はパラメータ名またはパラメータ番号) を使用して、パラメータを指定します。

説明: Oracle Connector 内のユーザー定義 PL/SQL ブロックで、パラメータ名は Oracle 構文を使用して指定しなければなりません。

ユーザーの処置: PL/SQL ブロックにバインド・パラメータを指定する場合は、必ず Oracle 構文を使用してください。

IIS-CONN-ORA-001058E コネクタがデータをバルク・ロード・モードで書き込むように構成されており、制約チェックのためのリジェクト条件がリジェクト・リンクに選択されていました。このオペレーションを機能させるには、例外表の名前も提供する必要があります。

説明: コネクタがバルク・ロード・モードでデータを書き込むときには、制約に違反した行をリジェクトするために、例外表が必要です。

ユーザーの処置: 「例外表名」プロパティに値を指定するか、リジェクト・リンクの「SQL エラー - 制約違反」チェック・ボックスのチェックを外してください。

IIS-CONN-ORA-001059E リンク {リンクの索引_1} に必要なノードの数は {ノード・カウント_1} で、リンク {リンクの索引_2} に必要なノードの数は {ノード・カウント_2} です。

説明: Oracle Connector を使用して複数の入力リンクがあるジョブでターゲット表の複数のパーティションに書き込む場合、各リンクのターゲット表には同数のパーティションがなければなりません。パラレル環境で、リンク {リンクの索引_1} は {ノード・カウント_1} 個のノードを必要とし、リンク {リンクの索引_2} は {ノード・カウント_2} 個のリンクを必要とするため、処理を進めることができません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのステップを実行してください。

- 異なる数のパーティションを持つ表に対して、別個のステージ・インスタンスを使用します。
- 別個のパーティション方式を使用して、データを表に書き込みます。
- 同じパーティション数になるように、ターゲット表のパーティション・スキームを変更します。

IIS-CONN-ORA-001060E 入力スキーマ列 {列名} は使用されておらず、コネクタは、入力スキーマ内で未使用の列が検出されたときに停止するよう構成されています。

説明: 示された入力スキーマ列は、入力スキーマ内にありますが、SQL ステートメントで使用されません。コネクタは、SQL ステートメントで入力スキーマ内の列が使用されない場合にジョブを停止するように構成されています。

ユーザーの処置: Oracle Connector の入力スキーマ内のすべての列を含むように SQL ステートメントを修正するか、「不一致のフィールドをドロップ」プロパティを「はい」に変更してください。

IIS-CONN-ORA-001062E データベースで行が更新されないレコードをコネクタが検出しましたが、リジェクト・リンクでそうしたレコードの処理が構成されていません。このシナリオの発生時にはジョブを停止するように、コネクタは構成されています。

説明: UPDATE ステートメントは、入力レコードによって、いずれの行も更新しませんでした。コネクタは、入力レコードによって行が更新されなかったときにジョブを停止するように構成されています。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのステップを実行してください。

- ステートメントによって表が必ず更新されるように、SQL ステートメントまたは入力データを修正します。
- 「更新された行がない場合に失敗」プロパティを「いいえ」に設定します。

IIS-CONN-ORA-001063E データベースで行が削除されないレコードをコネクタが検出しましたが、リジェクト・リンクでそうしたレコードの処理が構成されていません。このシナリオの発生時にはジョブを停止するように、コネクタは構成されています。

説明: DELETE ステートメントは、入力レコードによ

って、いずれの行も削除しませんでした。コネクタは、入力レコードによって行が削除されなかったときにジョブを停止するように構成されています。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのステップを実行してください。

- ステートメントによって表に対して必ず削除が行われるように、SQL ステートメントまたは入力データを修正します。
- 「削除された行がない場合に失敗」プロパティを「いいえ」に設定します。

IIS-CONN-ORA-001064E フィールド {フィールド名} に NULL 文字が入ったレコードが検出されました。このシナリオの発生時には停止するように、コネクタは構成されていません。

説明: {フィールド名} フィールドの入力データには NULL 文字が入った行があります。行に NULL 文字が含まれているときはジョブを停止するように、コネクタは構成されています。

ユーザーの処置: 入力データから NULL 文字を削除してください。また、入力データに NULL 文字が含まれるときのコネクタの動作方法を制御するには、CC_ORA_NULL_CHAR_ACTION 環境変数の値を指定してください。

IIS-CONN-ORA-001066E 環境変数 {コネクタ環境変数} に指定された値 {現行値} のフォーマットに誤りがあります。フォーマットは {フォーマット} でなければなりません。

説明: {コネクタ環境変数} コネクタ環境変数は、{フォーマット} フォーマットでなければなりません。

ユーザーの処置: dsenv ファイル、デザイナー・クライアント、アドミニストレータ・クライアント、システム環境、および環境変数が使用されている他のすべての場所で、環境変数の値を修正してください。

IIS-CONN-ORA-001067E データ・ファイルと制御ファイルの作業ディレクトリが指定されていません。

説明: Oracle Connector でデータを手動で書き込むときは、作業ディレクトリが指定されていなければなりません。

ユーザーの処置: 「データ・ファイルと制御ファイルのディレクトリ」プロパティにディレクトリを指定してください。

IIS-CONN-ORA-001068E コネクタは、デフォルトの Oracle サーバーへの接続を確立できませんでした。方式: {OCI 方式}、エラー・コード: {OCI エラー・コード}、エラー・メッセージ {OCI エラー・メッセージ}。

説明: コネクタはデフォルトの Oracle サーバーに接続できませんでした。

ユーザーの処置: 「ユーザー名」プロパティと「パスワード」プロパティが正しく指定されていること、および Oracle サービスとリスナーが実行中であることを確認してください。オペレーティング・システム認証を使用する場合は、オペレーティング・システム認証が Oracle データベースで正確に構成されていることを確認してください。デフォルトの Oracle サーバーを使用しない場合は、「サーバー」プロパティの値を指定してください。

詳細は、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターで、Oracle データベースへの接続の定義についてのトピックを参照してください。

IIS-CONN-ORA-001069E コネクタは、ユーザー {ユーザー} を使用して Oracle サーバー {Oracle サーバー} にアクセスできませんでした。方式: {OCI 方式}、エラー・コード: {OCI エラー・コード}、エラー・メッセージ {OCI エラー・メッセージ}。

説明: 認証障害のため、コネクタは {Oracle サーバー} Oracle サーバーに接続できませんでした。

ユーザーの処置: 「サーバー」、「ユーザー名」、および「パスワード」の各プロパティが正しく指定されていることを確認してください。また、Oracle サービスとリスナーが実行中であることを確認してください。オペレーティング・システム認証を使用する場合は、オペレーティング・システム認証が Oracle データベースで正確に構成されていることを確認してください。

詳細は、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターで、Oracle データベースへの接続の定義についてのトピックを参照してください。

IIS-CONN-ORA-001070E コネクタは、ユーザー {ユーザー} を使用してデフォルトの Oracle サーバーにアクセスできませんでした。方式: {OCI 方式}、エラー・コード: {OCI エラー・コード}、エラー・メッセージ {OCI エラー・メッセージ}。

説明: 認証障害のため、コネクタはデフォルトの

Oracle サーバーに接続できませんでした。

ユーザーの処置: 「ユーザー名」プロパティと「パスワード」プロパティが正しく指定されていること、および Oracle サービスとリスナーが実行中であることを確認してください。オペレーティング・システム認証を使用する場合は、オペレーティング・システム認証が Oracle データベースで正確に構成されていることを確認してください。デフォルトの Oracle サーバーを使用しない場合は、「サーバー」プロパティの値を指定してください。

IIS-CONN-ORA-001071E サポートされない状態コード : {状態コード}。

説明: コネクタは、データの処理中に、サポートされていない状態を検出しました。

ユーザーの処置: ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルまたは .isx ファイルとしてエクスポートできます。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターで、トラブルシューティングのトピックを参照してください。

他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターの InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

IIS-CONN-ORA-001072E LOB 列 {列名} の読み取り中に、コネクタがデータ切り捨てを検出しました。DataStage 列は {DataStage 列の長さ} バイトです。Lob データは {LOB データ長} バイトです。

説明: コネクタが {列名} LOB 列からのデータを読み取ったときに、データは {DataStage 列の長さ} バイトに切り捨てられました。データがこのように切り捨てられたときにはジョブを停止するように、コネクタは構成されています。

ユーザーの処置: 入力スキーマの {列名} InfoSphere DataStage 列のサイズを、ソース・データが切り捨てられることのない十分な長さの値に増やしてください。切

り捨てを容認する場合は、「データ切り捨ての失敗」プロパティを「いいえ」に設定してください。LOB データが大容量である場合は、「LOB 参照を可能にする」プロパティを使用して、LOB 参照を可能にすることをお勧めします。

IIS-CONN-ORA-001073E SQL ステートメントを単一パーティションから読み取るよう変更しようとしているときに、SQL ステートメントを構文解析できませんでした。これを訂正するには、SQL ステートメントを変更するか、パーティション方式を変更します。SQL ステートメントは '{SQL ステートメント}' です。

説明: コネクタは、パーティション読み取りに使用する表を判別するステートメントの構文解析に失敗しました。コネクタは、SQL ステートメントでパーティション読み取りのために指定された表名を見つけることも、SQL ステートメントの構文解析もできませんでした。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのステップを実行してください。

- パーティション読み取りに使用する表名が SQL ステートメントに含まれること、および SQL ステートメントの構文が正しいことを確認します。
- 別のパーティション方式を使用するには、「パーティション読み取り方式」プロパティの値を変更します。

IIS-CONN-ORA-001074E 環境変数 {コネクタ環境変数}={値} を構文解析しているときに、コネクタが入力スキーマで列 {列名} を検出できませんでした。

説明: {コネクタ環境変数} 環境変数には {列名} 列が含まれますが、この列は入力スキーマに存在しません。

ユーザーの処置: {列名} 列がジョブで使用する有効な列であれば、その列をコネクタの入力スキーマに追加してください。{列名} 列を使用しないのであれば、その列を {コネクタ環境変数} 環境変数の値から削除してください。

IIS-CONN-ORA-001075E 環境変数 {コネクタ環境変数}={値} を構文解析しているときに、コネクタが LOB ロケータと互換性のない列 {列名} を検出しました。

説明: {コネクタ環境変数} 環境変数には {列名} 列が含まれます。この列は、入力スキーマのデータ・

タイプとして定義されていますが、そのデータ・タイプが LOB ロケータでサポートされていません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのステップを実行してください。

- コネクタの入力スキーマの {列名} 列のデータ・タイプを、LOB ロケータでサポートされるタイプにします。サポートされるデータ・タイプは、LongVarchar、LongVbinary、および LongNVarchar です。
- {コネクタ環境変数} 環境変数の値から、{列名} 列を削除します。

IIS-CONN-ORA-001076E リンクに定義されている列が不十分であるため、SQL ステートメントを生成できません。

説明: リンク上に列が定義されていないため、コネクタは SQL ステートメントを生成できません。

ユーザーの処置: 1 つ以上の列を定義してください。

IIS-CONN-ORA-001077E コネクタは、プロパティ {プロパティ名} の検証をサポートしていません。

説明: コネクタは、示されたプロパティを検証できません。

ユーザーの処置: InfoSphere Information Server インフォメーション・センターを使用して、示されたプロパティを検証できるかどうか確認してください。より新しいバージョンのコネクタでは、検証が行われる可能性があります。

IIS-CONN-ORA-001078E レコード・カウント値は {レコード・カウント値} に設定されており、配列サイズ値は {配列サイズ値} に設定されていました。「再接続」プロパティを「はい」に設定すると、レコード・カウント値は配列サイズ値と一致する必要がありますが、ゼロにすることはできません。

説明: 接続が失われたときは再接続するようにコネクタが構成されている場合、配列サイズとレコード・カウントが一致している必要があります。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのステップを実行してください。

- 「レコード・カウント」プロパティの値と「配列サイズ」プロパティの値が等しくなるようにします。
- 接続が失われたときにコネクタが再接続しないようにするには、「再接続」プロパティを「いいえ」に設定します。

IIS-CONN-ORA-001079E {データ・タイプ・コード} のサポートされないデータ・タイプ・コードが、列 {列名} で使用されています。

説明: コネクタは、コネクタの入力スキーマで、現行コンテキストでサポートされないデータ・タイプを検出しました。エラーは、外部問題に関連している可能性があります。

ユーザーの処置: Oracle Connector ステージの入力スキーマに、サポートされているデータ・タイプを指定してください。サポートされるデータ・タイプに関する情報は、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターを参照してください。

この方法でエラーが解決しない場合は、ジョブ・ログとジョブ・デザインを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。ジョブ・デザインは .dsx ファイルまたは .isx ファイルとしてエクスポートできます。

IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に収集する必要がある特定のログと情報については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターで、トラブルシューティングのトピックを参照してください。

他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .dsx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターの InfoSphere DataStage and QualityStage ジョブのデザインに関するトピックを参照してください。他のユーザーと共有できるようにジョブ・デザインを .isx ファイルとしてエクスポートする方法については、InfoSphere Information Server インフォメーション・センターのジョブのデプロイおよびバージョン管理のアクセスに関するトピックを参照してください。

IIS-CONN-ORA-003001W 表 {表名} のドロップ中に、コネクタがエラーを検出しました。

説明: コネクタは DROP TABLE ステートメントを実行できませんでした。このエラーは、通常、指定された表が存在しないことを示します。

ユーザーの処置: ログ・ファイルで、SQL レベルでこの障害の理由を示す追加のメッセージを調べてください。「**DROP TABLE ステートメントが失敗した場合は中止**」プロパティを「いいえ」に設定している場合は、アクションは不要です。DROP ステートメントが予期せず失敗した場合は、ジョブ・ログの中で Oracle Connector に関するメッセージを調べて、DROP ステートメントが失敗した理由を特定してください。

IIS-CONN-ORA-003002W 表 {表名} の作成中に、コネクタがエラーを検出しました。

説明: コネクタは CREATE TABLE ステートメントを実行できませんでした。データベースには既に、示された名前で、指定された表オーナーが所有する表が存在している可能性があります。

ユーザーの処置: ログ・ファイルで、SQL レベルでこの障害の理由を示す追加のメッセージを調べてください。「**CREATE TABLE ステートメントが失敗した場合は中止**」プロパティを「いいえ」に設定している場合は、アクションは不要です。CREATE ステートメントが予期せず失敗した場合は、ジョブ・ログの中で Oracle Connector に関するメッセージを調べて、CREATE ステートメントが失敗した理由を特定してください。

IIS-CONN-ORA-003003W 表 {表名} の切り捨て中に、コネクタがエラーを検出しました。

説明: コネクタは表内のすべての行を削除できませんでした。

ユーザーの処置: ログ・ファイルで、SQL レベルで障害の理由を示す追加のメッセージを調べてください。

「**TRUNCATE TABLE ステートメントが失敗した場合は中止**」プロパティを「いいえ」に設定している場合は、アクションは不要です。TRUNCATE ステートメントが予期せず失敗した場合は、ジョブ・ログの中で Oracle Connector に関するメッセージを調べて、TRUNCATE ステートメントが失敗した理由を特定してください。

IIS-CONN-ORA-003004W コネクタはパラレルでデータをロードするように構成されましたが、リジェクト・リンクに対してチェック制約のリジェクト条件が選択されました。この組み合わせはサポートされません。コネクタは、順次モードで実行します。

説明: コネクタは、コンダクター・ノードではなく、処理ノードでのみリジェクト・リンクにレコードを送ることができます。バルク・ロード・モードでの制約チェックは、1 回しか実行できません。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのタスクを実行してください。

- 制約チェックがステージに対して 1 回だけ、処理ノードで実行されるようにするには、「**実行モード**」プロパティを「**順次**」に設定します。
- 「**書き込みモード**」プロパティを「**挿入**」に設定します。
- リジェクト・リンクの「**SQL エラー制約チェック**」チェック・ボックスのチェックを外します。

IIS-CONN-ORA-003005E バルク・ロード・モードで、行 {入力行オフセット}、列 {列名} のデータ変換エラーを検出しました。

説明: コネクターがデータをバルク・ロードしようとしたときに、示された入力行および列でデータ変換エラーが発生しました。

ユーザーの処置: 示された入力行および列の入力値が、出力表の対応する列に対して有効になるようにしてください。

IIS-CONN-ORA-003006E バルク・ロード・モードで、行 {入力行オフセット} のデータ・ロード・エラーを検出しました。

説明: コネクターがデータをバルク・ロードしようとしたときに、示された入力行をロードできませんでした。

ユーザーの処置: 示された行の列値が、対応する出力表定義に有効であるか確認してください。

IIS-CONN-ORA-003007E 表内の一部の列が制約違反であるため、コネクターは表 {表名} で制約 {制約名} を実行できませんでした。これらの列の ROWID 値は、例外表 {例外表の名前} に保管されます。

説明: ロードされたデータの一部の行は、コネクターがロード時に無効にし、ロード後に再度有効にしようとした制約に違反しています。

ユーザーの処置: コネクターがリジェクト済みレコードを処理するように構成されている場合、リジェクト済みレコードを調べて、問題の原因を判別してください。コネクターがリジェクト済みレコードを処理するように構成されていない場合、ターゲット表の中で、示された例外表に保管された ROWID 値と一致する ROWID 値を持つ行を調べてください。これらの行を分析して、指定された制約を行がどのように違反したかを判別できません。

IIS-CONN-ORA-003009W コネクターは、{ノード数} 個の処理ノードで、Oracle パーティション方式のパーティション読み取りを実行するように構成されましたが、表 {表名} はパーティション化されていません。コネクターは、順次モードで実行します。

説明: パーティション読み取りに Oracle パーティション方式を使用する場合、ソース表はパーティション化されていなければなりません。表がパーティション化されていないため、コネクターは、順次モードで実行します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのステップを実行してください。

- 「実行モード」プロパティを「順次」に設定します。
- 「パーティション読み取り方式」プロパティを、「Oracle パーティション」以外のパーティション読み取り方式に設定します。

IIS-CONN-ORA-003010W コネクターは、{ノード数} 個の処理ノードで、パーティション書き込みを実行するように構成されましたが、表 {表名} はパーティション化されていません。コネクターは、順次モードで実行します。

説明: Oracle Connector を使用してターゲット表の複数のパーティションに書き込む場合、ターゲット表はパーティション化されていなければなりません。表がパーティション化されていないため、コネクターは、順次モードで実行します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのステップを実行してください。

- 「実行モード」プロパティを「順次」に設定します。
- 「パーティション・タイプ」プロパティを、「Oracle Connector」以外の値に設定します。

IIS-CONN-ORA-003011W コネクターは、表 {表名} で、パーティション書き込みを実行するように構成されましたが、この表は、パーティション書き込みをサポートしていないコネクターのパーティション・スキーム {パーティション・スキーム} を使用しません。コネクターは、順次モードで実行します。

説明: Oracle Connector は {表名} 表に対して {パーティション・スキーム} パーティション・スキームをサポートしません。パーティション・スキームがサポートされないため、コネクターは、順次モードで実行します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのステップを実行してください。

- 「実行モード」プロパティを「順次」に設定します。
- 「パーティション・タイプ」プロパティを、「Oracle Connector」以外の値に設定します。

IIS-CONN-ORA-003012W コネクターは、表 {表名} で、Oracle パーティション方式を使用してパーティション読み取りを実行するように構成されましたが、単一パーティションまたはサブパーティション {パーティション} が指定されました。コネクターは、順次モードで実行します。

説明: Oracle パーティション読み取り方式を使用する場合、単一のパーティションまたはサブパーティションの表から読み取ることはできません。表は単一のパーティションまたはサブパーティションであるため、コネクターは、順次モードで実行します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのステップを実行してください。

- 「実行モード」プロパティを「順次」に設定します。
- 「パーティション読み取り方式」プロパティを、「Oracle パーティション」以外の値に設定します。

IIS-CONN-ORA-003013W コネクターは、表 {表名} で、パーティション書き込みを実行するように構成されましたが、単一パーティションまたはサブパーティション {パーティション} が指定されました。コネクターは、順次モードで実行します。

説明: Oracle Connector パーティション・タイプを使用する場合、単一のパーティションまたはサブパーティションの表へ書き込むことはできません。表は単一のパーティションまたはサブパーティションであるため、コネクターは、順次モードで実行します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのステップを実行してください。

- 「実行モード」プロパティを「順次」に設定します。
- 「パーティション・タイプ」プロパティを、「Oracle Connector」以外の値に設定します。

IIS-CONN-ORA-003014W 指定された表 {表名} のタイプは {スキーマ・オブジェクト・タイプ} です。ROWID 範囲読み取り方式は、このスキーマ・オブジェクト・タイプではサポートされません。コネクターは、代わりに、ROWID ハッシュ読み取り方式を使用します。

説明: Oracle Connector は、{スキーマ・オブジェクト・タイプ} タイプのスキーマ・オブジェクトに対し、ROWID 範囲パーティション読み取りの使用をサポートしません。スキーマ・オブジェクトが {スキーマ・

オブジェクト・タイプ} タイプであるため、ROWID ハッシュ・パーティション読み取り方式が使用されません。

ユーザーの処置: 「パーティション読み取り方式」プロパティを、「ROWID ハッシュ」以外の値に設定します。

IIS-CONN-ORA-003015W コネクターは、{システム・ビュー名} システム・ビューに対するアクセスを取得できませんでした。その表に対するアクセスは、ROWID 範囲読み取り方式に必要です。コネクターは、代わりに ROWID ハッシュ読み取り方式を使用します。

説明: ROWID 範囲パーティション読み取り方式を使用する場合、Oracle Connector は {システム・ビュー名} ディクショナリー・ビュー (システム・ビューとも呼ばれる) にアクセスできる必要があります。Oracle Connector が {システム・ビュー名} ディクショナリー・ビューにアクセスできないため、コネクターは ROWID ハッシュ読み取り方式を使用します。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのステップを実行してください。

- 現行ユーザーが、示された Oracle 静的ディクショナリー・ビューに対する読み取りアクセス権限を持つようにします。
- 「パーティション読み取り方式」プロパティを、「ROWID 範囲」以外の値に設定します。

IIS-CONN-ORA-003016W 透過アプリケーション・フェイルオーバーは、現行サービスには使用不可です。

説明: Oracle Connector が、透過アプリケーション・フェイルオーバー機能が有効でないサービスでこの機能を使用するように構成されています。

ユーザーの処置: 以下のいずれかのステップを実行してください。

- 現行サービスに透過アプリケーション・フェイルオーバーを有効にします。
- 「アプリケーション・フェイルオーバーの管理」プロパティを「いいえ」に設定します。

IIS-CONN-ORA-003017W 透過アプリケーション・フェイルオーバーは開始されました。フェイルオーバーのタイプ: {フェイルオーバー・タイプ}。

説明: データベース・インスタンスへの接続が失敗し、Oracle クライアントがコネクターに対する透過アプリケ

ーション・フェイルオーバーを開始しました。

ユーザーの処置: 以下のタスクを 1 つ以上実行してください。

- ジョブの実行を続行できるようにフェイルオーバーが完了するのを待ちます。場合によっては、透過アプリケーション・フェイルオーバーが完了した後であってもジョブが失敗することがあります。
- データベース・インスタンスが失敗した理由を特定して、問題を訂正します。その後、ジョブを再実行します。
- インスタンスが使用可能になったときに、ジョブを再実行します。

IIS-CONN-ORA-003018W コネクターは、透過アプリケーション・フェイルオーバーの完了まで {秒数} 秒待機します。試行回数 {現在の試行回数} / {合計試行回数}。

説明: Oracle クライアントがコネクターに対する透過アプリケーション・フェイルオーバーを開始しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-003019W 透過アプリケーション・フェイルオーバーが完了しました。コネクターはデータ処理を再開しようとします。

説明: 透過アプリケーション・フェイルオーバーが完了しても、ジョブは依然として失敗することがあります。透過アプリケーション・フェイルオーバーが開始されたときに中断された処理を新しいクライアント・セッションで構成できないときに、ジョブは失敗する可能性があります。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-003020W 透過アプリケーション・フェイルオーバーは失敗しました。

説明: 透過アプリケーション・フェイルオーバーは、「再試行回数」プロパティによって指定された試行回数以内で完了しませんでした。ほとんどの場合、ジョブ失敗の原因は、データベースへの接続が無効であることです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-003021W 透過アプリケーション・フェイルオーバーは、指定された時間内に、指定された試行回数、完了できませんでした。

説明: Oracle クライアントは、コネクターに対する透過アプリケーション・フェイルオーバーを完了できない

と判断しました。ほとんどの場合、ジョブ失敗の原因は、データベースへの接続が無効であることです。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-003022W コネクターは、パーティション書き込みを実行するように構成されましたが、パーティション書き込みの入力として使用する表の名前を判別できませんでした。コネクターは、順次モードで実行します。

説明: Oracle Connector はパーティション書き込みの表名を判別できなかったため、コネクターは、順次モードで実行します。

ユーザーの処置: パーティション化されたデータをパラレル・モードで書き込む場合、「表名」プロパティまたは「パーティション書き込みの表名」プロパティに値を入力してください。

IIS-CONN-ORA-003023W コネクターは、パーティション読み取りを実行するように構成されましたが、パーティション読み取りの入力として使用する表の名前を判別できませんでした。コネクターは、順次モードで実行します。

説明: Oracle Connector はパーティション読み取りの表名を判別できなかったため、コネクターは、順次モードで実行します。

ユーザーの処置: 「表名」プロパティまたは「パーティション読み取りの表名」プロパティに値を入力してください。

IIS-CONN-ORA-003024W {ステートメント・タイプ} ステートメント: {SQL ステートメント} の実行中に、コネクターがエラーを検出しました。

説明: コネクターは、示された SQL ステートメントを実行できませんでした。

ユーザーの処置: エラーがないか、示されたステートメントの構文を確認してください。また、ジョブ・ログを調べて、失敗に関する詳細情報が含まれる可能性のある他のメッセージを確認できます。

IIS-CONN-ORA-003025W 現行ノードでリジェクトされたレコード数: {レコード数}

説明: このメッセージは、現行処理ノードでリジェクトされたレコード数を報告します。リジェクトされたレコードの合計数は、すべての処理ノードのすべてのリジェ

クト済みレコードの合計です。ステージが単一ノードで実行している場合、報告される数は、そのステージでリジェクトされたレコードの合計数と一致します。

ユーザーの処置: オリジナル・レコードのデータを含むリジェクト済みレコードを調べてください。リジェクト・リンクに ERRORCODE 列と ERRORMESSAGE 列を含めた場合、それぞれのリジェクト済みレコードには、レコードのリジェクトの原因となったエラーに関する情報が含まれます。

IIS-CONN-ORA-004001I コネクターは、Oracle サーバー {サーバー名} に接続しました。

説明: Oracle Connector はサーバーへの接続を確立しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004002I コネクターは、外部認証を使用するように構成されています。

説明: Oracle Connector は、サーバーへの接続を試みる際に、オペレーティング・システム認証を使用します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004003I コネクターは、分散トランザクション環境に加わるように構成されています。

説明: Oracle Connector は Distributed Transaction ステージを通して実行され、グローバル・トランザクションに関与します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004004I コネクターは、順次モードで実行します。

説明: Oracle Connector は単一ノードで順次に実行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004005I コネクターは、{ノード数} 個の処理ノードで、パラレルで実行されます。

説明: Oracle Connector は、{ノード数} 個のノードで、パラレルで実行されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004006I コネクターは、実行時に次の {ステートメント・タイプ} ステートメントを生成しました。{SQL ステートメント}。

説明: Oracle Connector は、表に対するアクションを実行する、示された SQL ステートメントを生成しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004007I コネクターは、表 {表名} を作成しました。

説明: Oracle Connector は、示された表を正常に作成しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004008I コネクターは、表 {表名} をドロップしました。

説明: Oracle Connector は、示された表を正常にドロップしました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004009I コネクターは、表 {表名} を切り捨てました。

説明: Oracle Connector は、示された表を正常に切り捨てました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004010I コネクターは、指定された BEFORE SQL ステートメントを実行しました。

説明: Oracle Connector は、BEFORE SQL ステートメントを正常に実行しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004011I コネクターは、指定された AFTER SQL ステートメントを実行しました。

説明: Oracle Connector は、AFTER SQL ステートメントを正常に実行しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004012I コネクターは、指定された **BEFORE SQL (ノード) ステートメント** を実行しました。

説明: Oracle Connector は、BEFORE SQL (ノード) ステートメントを正常に実行しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004013I コネクターは、指定された **AFTER SQL (ノード) ステートメント** を実行しました。

説明: Oracle Connector は、AFTER SQL (ノード) ステートメントを正常に実行しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004014I 現行ノードでフェッチされた **行数: {行数}**。

説明: コネクターは、現行ノード上で、示された数の行をフェッチしました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004015I 現行ノードで挿入された行数: **{行数}**。

説明: コネクターは、現行ノード上で、示された数の行を挿入しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004016I 現行ノードで更新された行数: **{行数}**。

説明: コネクターは、現行ノード上で、示された数の行を更新しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004017I 現行ノードで削除された行数: **{行数}**。

説明: コネクターは、現行ノード上で、示された数の行を削除しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004018I 現行ノードで **PL/SQL ブロック** によって処理された **レコード数: {レコード数}**。

説明: PL/SQL ブロックは、現行ノード上で、示された数のレコードを処理しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004019I 現行ノードで **ルックアップ・ステートメント** によって処理された **レコード数: {レコード数}**。

説明: ルックアップ・ステートメントは、現行ノード上で、示された数のレコードを処理しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004021I コネクターは、{ノードのデフォルト数} 個の処理ノードで実行するように構成されましたが、表 {表名} に使用される Oracle パーティション・スキームは、合計 {ノードの必要数} 個の処理ノードを必要とします。ステージは、{ノード数} 個の処理ノードで実行します。

説明: 処理ノードのデフォルト数は、示された表に使用される Oracle パーティション・スキームに必要なノード数と異なります。Oracle Connector は、Oracle パーティション・スキームをサポートする処理ノードの数を調整しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004022I コネクターは、{ノード数} 個のノードで、**パラレル・モード** で実行するように構成されましたが、**パーティション読み取り** は使用不可でした。コネクターは、**順次モード** で実行します。

説明: 処理ノードのデフォルト数は {ノード数} ですが、パラレル読み取りが使用可能でないため、コネクターは順次で実行します。

ユーザーの処置: パラレル読み取りを可能にするには、「パーティション読み取りを有効にする」プロパティを「はい」に設定してください。

IIS-CONN-ORA-004023I コネクターは、パーティション・キー列 {キー列名} を入力スキーマ・フィールド {フィールド名} とマッチさせました。

説明: Oracle Connector がデータをパーティション化するときに、コネクターは、{フィールド名} スキーマ・フィールドの入力データを使用して {キー列名} パーティション・キー列をマッチさせます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004024I 日付キャッシュ統計: キャッシュ・サイズ: {キャッシュ・サイズ}、キャッシュ内のエレメント数: {エレメントの数} ヒット数: {ヒット数}、ヒットしなかった数: {ヒットしなかった数}、キャッシュは使用不可 (1 - はい、0 - いいえ): {キャッシュの使用可能性}。

説明: バルク・ロード処理についての日付キャッシュの使用に関する統計が示されています。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004025I コネクターは、表 {表名} の制約 {制約名} を無効にしました。

説明: バルク・ロード処理の準備のため、Oracle Connector は、{表名} 表の {制約名} 制約を無効にしました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004026I コネクターは、表 {表名} のすべてのトリガーを無効にしました。

説明: バルク・ロード処理の準備のため、Oracle Connector は、{表名} 表のすべてのトリガーを無効にしました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004027I コネクターは、表 {表名} の制約 {制約名} を有効にしました。

説明: バルク・ロード処理の後、Oracle Connector は、{表名} 表の {制約名} 制約を有効にしました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004028I コネクターは、制約 {制約名} に違反した、表 {表名} の行を削除しました。

説明: バルク・ロード処理の後、Oracle Connector は、{制約名} 制約に違反した、{表名} 表の行を削除しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004029I コネクターは、表 {表名} のすべてのトリガーを有効にしました。

説明: バルク・ロード処理の後、Oracle Connector は、{表名} 表のすべてのトリガーを有効にしました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004030I コネクターは、一度に {0} 行をロードします。

説明: コネクターが一度にロードする行数は、「配列サイズ」プロパティの値と Oracle ロード・バッファーに基づきます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004031I コネクターは、表 {表名} の索引 {索引名} を再作成しました。

説明: バルク・ロード処理の後、Oracle Connector は、{表名} 表の {索引名} 索引を再作成しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004032I 透過アプリケーション・フェイルオーバーは、現行サービスに使用可能です。

説明: コネクターは、透過アプリケーション・フェイルオーバー機能が現行サービスで使用可能であると判別しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004033I 現行ノードでロードされた行数: {行数}。

説明: Oracle Connector は、現行ノード上で、示された数の行をロードしました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004034I コネクターは、表 {表名} をパーティション読み取り方式の入力として使用します。

説明: コネクターは、{表名} 表がパーティション読み取り方式の入力として使用されると判別しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004035I コネクターは、表 {表名} をパーティション書き込み方式の入力として使用します。

説明: コネクターは、{表名} 表がパーティション書き込み方式の入力として使用されると判別しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004036I コネクターは {ステートメント・タイプ} ステートメント {SQL ステートメント} を実行しました。

説明: Oracle Connector は、示された、表のアクションの SQL ステートメントを正常に実行しました。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004037I レコード・カウント値は {レコード・カウント} に設定されており、配列サイズ値は {配列サイズ} に設定されていました。レコード・カウント値は配列サイズ値の倍数でなければならないため、コネクターによって配列サイズ値は {調整配列サイズ} に変更されます。

説明: コネクターは、レコード・カウントのユーザー指定値が配列サイズ値の倍数でないことを検出しました。レコード・カウントは配列サイズの倍数でなければなりません。そのため、コネクターは、配列サイズを {調整配列サイズ} に調整しました。

ユーザーの処置: このメッセージを削除するには、レコード・カウントが配列サイズの倍数になるように、「配列サイズ」プロパティの値を変更してください。

IIS-CONN-ORA-004038I 入力スキーマの列 {入力列名} は使用されていません。無視されます。

説明: 示された、コネクターの入力スキーマの列は、ステートメントで使用されません。また、コネクターは、ステートメントで使用されない列を無視するように構成されています。そのため、コネクターは、この列を無視します。

ユーザーの処置: 入力スキーマの列が使用されない場合はジョブを停止するようにするには、「不一致のフィールドをドロップ」プロパティを「いいえ」に設定してください。

IIS-CONN-ORA-004039I コネクターは、実行時に次の {ステートメント・タイプ} ステートメントを使用します。{SQL ステートメント}。

説明: Oracle Connector は、示された SQL ステートメントを実行してデータを処理します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004040W コネクターはパラレルでデータをロードするように構成されましたが、バルク・ロードに対して手動モードが選択されました。コネクターは、順次モードで実行します。

説明: コネクターは、バルク・ロードに対して手動モードを使用するように構成されている場合は、順次モードで実行しなければなりません。

ユーザーの処置: ジョブがバルク・ロードで手動モードを使用するようにする場合は、アクションは不要です。警告メッセージが出されないようにするには、ジョブを順次モードで実行するように構成してください。ジョブが手動モードを使用しないようにするには、「手動モード」プロパティを「いいえ」に変更してください。

IIS-CONN-ORA-004041I コネクターによってエラーが検出されましたが、エラーが発生した現行配列の行を特定できません。より具体的なエラー情報を取得するために、「配列サイズ」プロパティを 1 に設定してからジョブを再実行してください。

説明: ステートメントが実行されたときにエラーが発生しましたが、失敗している行についての情報は取得されませんでした。

ユーザーの処置: さらに情報を取得するには、「配列サイズ」プロパティを 1 に設定してからジョブを再実行してください。

IIS-CONN-ORA-004042I レコード・カウント値は {レコード・カウント} に設定されており、配列サイズ値は {配列サイズ} に設定されていました。コネクターがドロップされた接続に対して再接続するように構成されている場合、配列サイズ値はレコード・カウント値と一致する必要があります。コネクターは、配列サイズを {レコード・カウント} に変更します。

説明: コネクターがドロップされた接続に対して再接続するように構成されている場合、配列サイズとレコード・カウントが一致している必要があります。ジョブを実行したときに、コネクターは、値が等しくなかったことを検出し、配列サイズを {レコード・カウント} に変更しました。

ユーザーの処置: このメッセージを削除するには、「配列サイズ」プロパティの値を「レコード・カウント」プロパティの値に設定してください。

IIS-CONN-ORA-004043I レコード・カウント値は {レコード・カウント} に設定されており、配列サイズ値は {配列サイズ} に設定されていました。コネクタがフェイルオーバー後に書き込み処理を再開するように構成されている場合、配列サイズ値はレコード・カウント値と一致する必要があります。コネクタは、配列サイズを {レコード・カウント} に変更します。

説明: 透過アプリケーション・フェイルオーバーを使用することによって書き込み処理を再開するようにコネクタが構成されている場合、配列サイズとレコード・カウントが一致している必要があります。ジョブを実行したときに、コネクタは、値が等しくなかったことを検出し、配列サイズを {レコード・カウント} に変更しました。

ユーザーの処置: このメッセージを削除するには、「配列サイズ」プロパティの値を「レコード・カウント」プロパティの値に設定してください。

IIS-CONN-ORA-004044I データベースへの接続が失われました。Oracle エラー・コードは {エラー・コード} です。

説明: Oracle Connector がデータを処理している間に、コネクタは Oracle データベースへの接続を失いました。コネクタが再接続可能で、かつ、コネクタが再接続するように構成されている場合、コネクタは、接続を再確立してジョブを続行するよう試行します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004045I コネクタがデータベースに再接続しようとしています。

説明: Oracle Connector はデータベースへの接続を再確立しようとしています。接続問題のために接続が失われた後、あるいは、無応答タイムアウトの期限切れのためにコネクタによって接続がドロップされた後に、コネクタは再接続します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004046I データベースに再接続しようとしています。試行回数 {現在の試行回数} / {合計試行回数}。

説明: コネクタがデータベースに再接続するときに、このメッセージは、これまでにコネクタが試みた試行回数をログに記録します。再試行回数は、「再試行回数」プロパティによって定義されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004047I 接続が失敗しました。Oracle エラー・コードは {エラー・コード} です。{待ち時間} 秒待機した後で再試行します。

説明: データベースへの再接続が失敗し、示された Oracle エラー・コードが返されました。コネクタは再接続を試行する前に、「再試行間隔」プロパティで指定された秒数の間待機します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004048I 指定された非アクティビティの期間が経過したため、コネクタがデータベースから切断されました。

説明: コネクタは、「非アクティビティ期間」プロパティに指定された非アクティビティの期間に到達したため、現行接続を閉じます。データが再度使用可能になると、コネクタは再接続して続行します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004049I コネクタは、必要に応じて再び接続を確立します。

説明: コネクタは、「非アクティビティ期間」プロパティに指定された非アクティビティの期間に到達したため、接続を閉じました。データが再度使用可能になると、コネクタは再接続して続行します。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

IIS-CONN-ORA-004050W フェイルオーバー時にアクティブだったトランザクションの下の 1 つ以上の入力リンクで、複数の配列のデータがデータベースに書き込まれたため、コネクタが書き込み処理を再開できません。

説明: 透過アプリケーション・フェイルオーバーの後で書き込み処理を再開するようにコネクタが構成されている場合、コネクタは処理の再開を試みる前に、入力リンクを調べます。それぞれの入力リンクについて、コネクタは、フェイルオーバー前のトランザクションに対して、そのリンクでデータベースにサブミットされたレコードの唯一の配列が現行配列であるかどうかを検査します。

入力リンクが 1 つしか使用されていない場合、この要件は、「配列サイズ」プロパティと「レコード・カウント」プロパティに同じ値を設定することによって満たされます。

複数の入力リンクが使用されている場合、「レコード・カウント」プロパティはサポートされず、トランザク

ション境界は、各リンクの入力データ・セット内の「ウェーブの終わり」マーカー・レコードによって制御されます。一部の入力リンクで、現行トランザクションでレコードの複数の配列がデータベースにサブミットされる可能性があります。現行トランザクションで複数の配列がサブミットされると、コネクタは、現行配列の前の複数の配列を再度サブミットできないため、書き込み処理を再開できません。

ユーザーの処置: すべての入力リンクでレコードの単一配列がデータベースにサブミットされた後でトランザクションがコミットされるように、「**配列サイズ**」プロパティをすべての入力リンクで同じ値に設定し、入力データ・セット内に「ウェーブの終わり」マーカーを設定してください。

あるいは、複数の入力リンクがある単一ステージを使用せずに、ターゲット表ごとに別個のステージを使用します。各ステージで単一入力リンクを使用し、「**レコード・カウント**」プロパティと「**配列サイズ**」プロパティに同じ値を設定してください。

**IIS-CONN-ORA-004051I SQL ステートメントを単一パーティションから読み取るよう変更しようとしているときに、読み取り方式の表名が検出できないか、指定されていません。
{SQL キーワード} が表名 '{名前}' の後の位置 {位置番号} に挿入されます。**

説明: コネクタはパーティション読み取りを行うように構成されましたが、パーティション読み取りの表名が指定されていないか検出されませんでした。パーティション読み取りを行うために、SQL ステートメントの {名前} 表名の後に、{SQL キーワード} が挿入されます。

ユーザーの処置: アクションは不要です。

付録 A. 製品のアクセシビリティ

IBM® 製品のアクセシビリティ対応状況についての情報を入手できます。

IBM InfoSphere Information Server 製品のモジュールおよびユーザー・インターフェースは完全にはアクセシビリティ対応がなされていません。

IBM 製品のアクセシビリティ対応状況の詳細は、http://www.ibm.com/able/product_accessibility/index.html の IBM 製品のアクセシビリティ情報をご覧ください。

アクセシビリティ対応資料

IBM Knowledge Center には、製品のアクセシビリティ対応資料が用意されています。IBM Knowledge Center では、ほとんどの Web ブラウザーで表示可能な XHTML 1.0 形式で資料を提供しています。IBM Knowledge Center では XHTML を使用しているため、使用しているブラウザに設定されている表示形式で資料を表示できます。さらに、スクリーン・リーダーやその他の支援技術を使用して、資料にアクセスすることもできます。

IBM Knowledge Center にある資料は、PDF ファイルでも提供されますが、こちらは完全にはアクセシビリティ対応がなされていません。

IBM のアクセシビリティに対する取り組み

アクセシビリティに関する IBM のコミットメントの詳細については、IBM Human Ability and Accessibility Center を参照してください。

付録 B. IBM の窓口

お客様サポート、ソフトウェア・サービス、製品情報、および全般情報について、IBM と連絡を取ることができます。また、製品についてのフィードバックを行うことができます。

次の表に、お客様サポート、ソフトウェア・サービス、研修、製品およびソリューション情報に関するリソースをリストしています。

表1. IBM リソース

| リソース | 説明と場所 |
|---------------|--|
| IBM サポート・ポータル | サポート情報は、 www.ibm.com/support/entry/portal/Software/Information_Management/InfoSphere_Information_Server で、製品と関心のあるトピックを選択してカスタマイズできます。 |
| ソフトウェア・サービス | ソフトウェア、IT、およびビジネス・コンサルティング・サービスについての情報は、「ソリューション」サイト www.ibm.com/businesssolutions/jp/ja にアクセスしてください。 |
| My IBM | www.ibm.com/account/jp/ja/ の「My IBM」サイトでアカウントを作成し、特定のテクニカル・サポートのニーズに合うように、IBM Web サイトおよび情報へのリンクを管理できます。 |
| 研修と認定 | 個人、法人、および公共団体向けに、IT 技術の習得、維持、最適化を目的としてデザインされた技術研修およびサービスについては、 http://www.ibm.com/training にアクセスしてください。 |
| IBM 担当員 | ソリューションについて IBM 担当員と連絡を取るには、 www.ibm.com/connect/ibm/us/en/ にアクセスしてください。 |

付録 C. 製品資料へのアクセス

資料は、オンラインの IBM Knowledge Center、オプションでローカルにインストールしたインフォメーション・センター、PDF のブックといったさまざまな形式で提供されます。製品クライアント・インターフェースから、オンラインまたはローカルにインストールしたヘルプに直接アクセスすることができます。

IBM Knowledge Center は、InfoSphere Information Server の最新情報を探すのに最適な場所です。IBM Knowledge Center には、スイートのすべての製品モジュールの全資料のほか、ほとんどの製品インターフェースのヘルプも含まれています。IBM Knowledge Center は、インストール済み製品から開くことも、Web ブラウザーから開くこともできます。

IBM Knowledge Center へのアクセス

オンライン資料にアクセスするには、さまざまな方法があります。

- クライアント・インターフェースで、画面右上の「ヘルプ」リンクをクリックします。
- F1 キーを押します。F1 キーを押すと、通常、クライアント・インターフェースの現行コンテキストを説明するトピックが開きます。

注: F1 キーは、Web クライアントでは機能しません。

- 製品にログインしていないときなどに、Web ブラウザーにアドレスを入力します。

すべてのバージョンの InfoSphere Information Server の資料にアクセスするには、以下のアドレスを入力します。

<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ/>

特定のトピックにアクセスするには、製品 ID とバージョン番号、資料プラグイン名、および URL 内のトピック・パスを指定します。例えば、バージョン 11.3 用のこのトピックの URL は以下のとおりです。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ_11.3.0/⇒com.ibm.swg.im.iis.common.doc/common/accessingiidoc.html

ヒント:

Knowledge Center には、以下の短縮 URL もあります。

<http://ibm.biz/knowctr>

特定の製品ページ、バージョン、またはトピックの短縮 URL を指定するには、短縮 URL と製品 ID の間にハッシュ文字 (#) を使用します。例えば、すべての InfoSphere Information Server 資料の短縮 URL は、以下のとおりです。

<http://ibm.biz/knowctr#SSZJPZ/>

また、前述のトピックの URL を少し短くした短縮 URL は、以下のとおりです。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

```
http://ibm.biz/knowctr#SSZJPZ_11.3.0/com.ibm.swg.im.iis.common.doc/⇒  
common/accessingiidoc.html
```

ローカルにインストールした資料を参照するヘルプ・リンクの変更

IBM Knowledge Center には、最新版の資料が含まれています。一方、インフォメーション・センターとしてローカル版の資料をインストールして、それを指すようにヘルプ・リンクを構成することも可能です。ローカルのインフォメーション・センターは、お客様の企業でインターネットへのアクセスが提供されていない場合に便利です。

インフォメーション・センターのインストール・パッケージに付属するインストール手順を使用して、任意のコンピューターにそれをインストールします。インフォメーション・センターをインストールして開始した後、サービス層のコンピューターで **iisAdmin** コマンドを使用して、製品の F1 とヘルプ・リンクで参照する資料の場所を変更できます。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

Windows

```
IS_install_path¥ASBServer¥bin¥iisAdmin.bat -set -key ⇒  
com.ibm.iis.infocenter.url -value http://<host>:<port>/help/topic/
```

AIX® Linux

```
IS_install_path/ASBServer/bin/iisAdmin.sh -set -key ⇒  
com.ibm.iis.infocenter.url -value http://<host>:<port>/help/topic/
```

ここで、<host> はインフォメーション・センターがインストールされたコンピューターの名前、<port> はインフォメーション・センターのポート番号です。デフォルトのポート番号は 8888 です。例えば、デフォルト・ポートを使用するコンピューター `server1.example.com` 上の URL 値は、`http://server1.example.com:8888/help/topic/` になります。

PDF およびハードコピー資料の入手

- PDF ファイルのブックはオンラインで利用可能で、サポートの文書 <https://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27008803&wv=1> からアクセスできます。
- IBM 資料は、オンラインでダウンロード、または IBM 担当員を通じてご注文いただけます。資料をオンラインでダウンロードするには <http://www.ibm.com/e-business/linkweb/publications/servlet/pbi.wss> の IBM Publications Center にアクセスしてください。

付録 D. 製品資料に関するフィードバックの提供

IBM の資料に関する貴重なフィードバックをご提供ください。

お客様からのご意見やご感想は、IBM が質の高い情報を提供するための参考にさせていただきます。ご意見をお寄せいただく場合は、次のいずれかの方法を使用することができます。

- IBM の Web サイトでホストしている IBM Knowledge Center 内のトピックについてコメントをお寄せいただくには、サインインし、トピックの下の「**コメントの追加**」ボタンをクリックしてコメントを追加してください。このようにして送信されたコメントは、一般に公開されます。
- IBM Knowledge Center 内のトピックに関するコメントを IBM に送信し、他の人からは閲覧できないようにするには、サインインし、IBM Knowledge Center の下の「**フィードバック**」リンクをクリックしてください。
- オンライン・リーダー用のコメント・フォーム (www.ibm.com/software/awdtools/rcf/) を使用して、コメントを送信します。
- コメントを E メールで comments@us.ibm.com に送付します。お送りいただく情報には、製品の名前、製品のバージョン番号、資料の名前と部品番号 (該当する場合) を含めてください。特定のテキストについてご意見がある場合は、そのテキストの位置 (例えば、タイトル、表番号、ページ番号など) を記載してください。

特記事項および商標

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料は、IBM から他の言語でも提供されている可能性があります。ただし、ご利用にはその言語版の製品もしくは製品のコピーを所有していることが必要な場合があります。

特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
J46A/G4
555 Bailey Avenue
San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、さまざまなオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されて

います。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッションごとの Cookie または永続的な Cookie を使用する場合があります。製品またはコンポーネントがリストされていない場合、その製品またはコンポーネントは Cookie を使用しません。

表 2. InfoSphere Information Server 製品およびコンポーネントによる Cookie の使用

| 製品モジュール | コンポーネントまたは機能 | 使用される Cookie の種類 | 収集するデータ | データの目的 | Cookie の無効化 |
|--|---|---|---------|---|-------------|
| すべて (InfoSphere Information Server インストール済み環境の部分) | InfoSphere Information Server Web コンソール | <ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 | ユーザー名 | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 | 無効にできない |

表 2. InfoSphere Information Server 製品およびコンポーネントによる Cookie の使用 (続き)

| 製品モジュール | コンポーネントまたは機能 | 使用される Cookie の種類 | 収集するデータ | データの目的 | Cookie の無効化 |
|--|--|---|---|--|-------------|
| すべて (InfoSphere Information Server インストール済み環境の部分) | InfoSphere Metadata Asset Manager | <ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 | 個人情報でない | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 拡張されたユーザーのユーザビリティ シングル・サインオン構成 | 無効にできない |
| InfoSphere DataStage | Big Data File ステージ | <ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 | <ul style="list-style-type: none"> ユーザー名 デジタル署名 セッション ID | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 シングル・サインオン構成 | 無効にできない |
| InfoSphere DataStage | XML ステージ | セッション | 内部 ID | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 | 無効にできない |
| InfoSphere DataStage | IBM InfoSphere DataStage and QualityStage Operations Console | セッション | 個人情報でない | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 | 無効にできない |
| InfoSphere Data Click | InfoSphere Information Server Web コンソール | <ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 | ユーザー名 | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 | 無効にできない |
| InfoSphere Data Quality Console | | セッション | 個人情報でない | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 シングル・サインオン構成 | 無効にできない |
| InfoSphere QualityStage Standardization Rules Designer | InfoSphere Information Server Web コンソール | <ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 | ユーザー名 | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 | 無効にできない |
| InfoSphere Information Governance Catalog | | <ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 | <ul style="list-style-type: none"> ユーザー名 内部 ID ツリーの状態 | <ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 シングル・サインオン構成 | 無効にできない |
| InfoSphere Information Analyzer | InfoSphere DataStage and QualityStage Designer クライアントの中の Data Rules ステージ | セッション | セッション ID | セッション管理 | 無効にできない |

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライ

ン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含むさまざまなテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』 (<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Adobe は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、Itanium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows および Windows NT は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java[™] およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

お客様サポート
連絡先 23

[サ行]

サポート
お客様 23
商標
リスト 29
製品資料
アクセス 25
製品のアクセシビリティ
アクセシビリティ 21
ソフトウェア・サービス
連絡先 23

[タ行]

特記事項 29

[マ行]

メッセージ・リファレンス
Oracle Connector 1



Printed in Japan

SC43-1007-00



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21